

<第 92 回 HSE セミナー 講演紹介>

■テーマ：「1 人薬剤師薬局は集約化が必要か」

■講師：伊藤 由希子 氏（津田塾大学総合政策学部 准教授/経済財政諮問会議 委員）

「目指すビジョンと比べ現在は脆弱な状態にある」。こんな問題提起が経済財政諮問会議でされた。言葉だけ取り上げられ一人歩きしているが、議事録を読む限りでは一理ある発言と言える。いま医薬分業の真意が問われている時代と言えるのではないだろうか。58,000 軒まで増えた薬局数に対し、薬局ビジョンに求められる「かかりつけ薬局像」だけでは現場が対応しきれなくなっている。増える薬局数を維持するためには調剤報酬は必須である。それは逆説的に、すべての薬局に「かかりつけ」を求めることとなる。生き残るためには努力が必要であり、それが難しければ「集約化」、言い直すと「力あるところに助けてもらう」ということなのだろう。

<講師紹介>

国際経済と医療経済を専門に研究。産業の立地選択が生産性に与える影響をテーマに、多国籍企業の進出要因や、医療サービス立地の効率性を研究。東京大学経済学部卒業後、米ブラウン大学博士（経済学）。東京経済大学経済学部専任講師を経て、2009 年より現職。現在、内閣府「経済・財政一体改革推進委員会（社会保障ワーキング・グループ）」委員を務める。著書に『国際経済学のフロンティア』〔共著〕（東京大学出版会、2016 年）、『私たちの国際経済（新版）』〔共著〕（有斐閣、2009 年）

■テーマ：「在宅医療の今後と薬剤師の役割」

■講師：新田 國夫 氏（新田クリニック理事長/全国在宅療養支援診療所連絡会会長）

地域医療構想によるベッド数の制限、療養型病床の廃止予定と着実に「病院から在宅へ」と医療体制の変化が進む。2025 年を飛び越え 2050 年には日本の人口は 1 億人を切ると推定されている。しかしながら高齢者の数は減ることはなく、高齢化は 38.8%と世界に類を見ない超高齢国家が生まれる。そんな突拍子もない世界であっても、進む高齢化と少子化により医師の絶対数も少なくなることは言うまでもない。「できる人材にはできる仕事をさせる」そんなことが求められるのではないだろうか。未来に向けた薬剤師の可能性と限界について話を聞いてみたいと思う。看護師の特定行為拡大が叫ばれる中、薬の専門家である薬剤師がこのままでよいのだろうか。

<講師紹介>

1967 年早稲田大学第一商学部卒業。1979 年帝京大学医学部卒業、帝京大学病院第一外科・救急センターなどを経て、1990 年東京都国立市に新田クリニック開設。在宅医療を開始する。1992 年医療法人社団つくし会を設立、理事長に就任。現在は、全国在宅療養支援診療所連絡会会長、日本臨床倫理学会理事長、福祉フォーラム・東北会長、福祉フォーラムジャパン副会長、日本在宅ケアアライアンス議長などを兼任。

■テーマ：「遠隔診療の取り組みとその後の展開」

■講師：小川 智也 氏（MRT 株式会社 取締役副社長/イカ・ヘルスケア本部長 医師）

時代の流れに乗り、急浮上をしてきた「遠隔診療」。当初は僻地医療に限定するという話であったが、いつの間にか限定解除がされていた。その背景には、「骨太の方針」という国家戦略が潜んでいた。国は遠隔診療による「無駄」の排除に狙いを定めている。それはそうとこの遠隔診療には一つの「盲点」がある。それは「院内処方であれば薬を郵送できる」という点である。院内処方に関しては薬剤師法の管轄外であり、服薬指導の義務はない。診察に付随する無駄を排除し、調剤報酬も削減できる。国の目指す「削減ビジョン」が達成できるのではないだろうか。こんな話も一つの未来であり、それに対する対応を今から考える必要がある。リスクマネジメントの基本はバッドエンディングを想定することから始まる。

<講師紹介>

平成 14 年山田赤十字病院入職。大阪府立千里救命救急センターを経て、平成 17 年国立病院機構大阪医療センター救急医療センターに入職。その後、日本健康教育振興協会、マリーシアガーデンクリニック副院長を経て平成 23 年に MRT 株式会社取締役事業本部長に就任。経営戦略室長、事業本部長を経て平成 27 年同社取締役副社長に就任。